

令和5年度 学校評価アンケート結果について

1 今年度の学校評価の概要

(1) 教職員評価→「学校評価（教職員評価）」

教育目標・教育課程・学習指導、生徒指導・進路指導、安全管理・保健管理、特別支援教育、組織運営、保護者・地域との連携、施設・設備・環境等についての評価項目別に自己評価を行う。

(2) 保護者評価→「学校評価アンケート（保護者用）」

学校評価を行う上で目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等を保護者の視点で評価するとともに、保護者自身の本校教育活動や子育てへの関与について自己評価をする。

(3) 児童生徒による評価→「学校評価アンケート（児童生徒用）」

児童生徒の評価を通して、児童生徒の心情を理解し、教育活動の改善に活かす。

(4) 学校関係者評価

保護者の代表や地域住民を含む学校評議員会などにおいて、学校関係者が学校の教育活動の観察や意見交換を通じて学校評価について評価する。

A「そのとおり」 B「ほぼそのとおり」 C「あまりそう思わない」 D「全くそう思わない」

2 教職員による評価

30名中30名の回答。C・Dの評価があった項目については、網掛けをしている。

No	評価項目	評価			
学校教育目標に関すること					
1	学校教育目標や重点目標、グランドデザインを意識し、その達成を目指して日々の教育活動を推進した。	A	B	C	D
		8	20	0	0
2	学校教育目標の実現に向けて学校運営に参画した。	A	B	C	D
		10	18	0	0
分かる喜び、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに関すること					
3	個別指導計画の客観的な評価ができた。	A	B	C	D
		5	21	2	0
4	子ども一人一人に、基礎的・基本的な学力の定着が図られた。	A	B	C	D
		6	20	2	0
5	個別懇談等において、子どもの様子や学習の評価を保護者に適切に伝えられた。	A	B	C	D
		12	16	0	0
社会で生きていくための力を育む教育の充実に関すること					
6	学校行事や寄宿舎行事、校外学習、交流及び共同学習は適切に行われた。	A	B	C	D
		15	14	1	0
7	キャリア教育の視点を持ち、将来必要な生活習慣等を適切に指導した。	A	B	C	D
		10	15	3	0
8	子どもの将来を本人や保護者と話し合い、進路に関する情報提供を適切に行った。	A	B	C	D
		8	19	1	0
安全で安心して学べる学校づくりに関すること					
9	教職員は子どもの人権を尊重した対応をした。	A	B	C	D
		22	8	0	0
10	いじめや体罰を許さない意識を持っている。	A	B	C	D
		29	1	0	0
11	学校は子ども達にとって安全な環境になっていた。	A	B	C	D
		16	13	0	0
12	校内や寄宿舎内は、いつも清潔な状態に保たれていた。	A	B	C	D
		22	6	2	0
13	危機管理の意識を持ち日々の業務に当たった。	A	B	C	D
		18	11	1	0
豊かな人間性を育む教育の推進に関すること					
14	子どもへの食育は適切に行われた。	A	B	C	D
		18	12	0	0

15	家庭・教務・舎務が一体となって基本的生活習慣や日常生活の充実を図った。	A	B	C	D
		11	17	0	0
16	教育活動を通じて、道徳教育の推進を図った。	A	B	C	D
		11	16	1	0
教職員の指導力向上・授業改善・専門性の向上に関すること					
17	子どもの障がいや発達段階等についての的確な実態把握を踏まえた指導をした。	A	B	C	D
		9	18	1	0
18	個別の教育支援計画の作成・見直しが計画的にできた。	A	B	C	D
		7	20	1	0
19	教務・舎務・事務が連携して、子どもの学校生活を支えた。 (報・連・相)	A	B	C	D
		16	13	1	0
20	校内研修や外部研修等に積極的に参加した。	A	B	C	D
		10	17	1	0
21	学校は地域における視覚障がい教育のセンター校としての役割を果たしていた。	A	B	C	D
		15	11	4	0
その他					
22	教育公務員として服務規律を遵守し行動した。	A	B	C	D
		27	3	0	0
23	学校予算は計画的で効果的な執行をしていた。	A	B	C	D
		18	9	3	0
24	業務の効率化、勤務時間の縮減に向けて意識を高めた。	A	B	C	D
		13	13	2	2

(1) 評価結果から

今年度は、重複している内容の項目について文言の精査、項目の統合をし、函館盲学校グランドデザインの5つの分類に分けた。服務規律、働き方改革についてはその他とした。

評価は、今年度はC評価があるものは15項目あり、D評価は1項目ある。3名以上がC・D評価を付けた項目数が3項目あったが、概ねA・B評価である。

ア. 学校教育目標に関すること (No.1～2)

すべてA・B評価で、個々が学校教育目標の実現に向かい取り組むことができている。

イ. 分かる喜び、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに関すること (No.3～5)

「客観的な評価」と「基礎的・基本的学力の定着」について、あまり十分ではなかったとの評価があった。客観的な評価方法について検討していく必要がある。

ウ. 社会で生きていくための力を育む教育の充実に関すること (No.6～8)

すべての項目においてC評価があるが、ほとんどはA・B評価である。

学校行事や寄宿舍行事、校外学習、交流及び共同学習については、制限が緩み校外学習や交流及び共同学習を実施することができた。また、ICTを活用しての実施も継続して検討していく。

キャリア教育の視点と進路情報の提供についてC評価があった。将来を見据えたキャリアの視点をもった指導について研修等も行いながら、指導を進めていくとともに生活年齢に合った対応を心がけていく必要がある。

エ. 安全で安心して学べる学校づくりに関すること (No.9～13)

いじめや体罰を許さない意識や人権尊重の項目はよい評価であったが、危機管理意識の項目ではC評価があった。危険要因がなくなるよう努める。

安全面で物品の設置場所等について検討が必要である。

オ. 豊かな人間性を育む教育の推進に関すること (No.14～16)

概ねよい評価である。今後も家庭・教務・舎務が連携し、基本的生活習慣や日常生活への指導について取り組むよう努める。

カ. 教職員の指導力向上・授業改善・専門性の向上に関すること (No.17～21)

概ねよい評価ではあるが、すべての項目でC評価があった。

特に地域における視覚障がい教育のセンター校としての役割についての項目については、次年度に向けての検討課題となる。

キ. その他 (No.22～24)

概ねよい評価である。

予算執行については、計画的な教材等の購入できるよう検討する必要がある。

働き方改革に関することでは、個々に意識はしている様子が見られるが、C・D 評価がある。学校全体での業務の改善、削減等についてさらに検討を進めていく必要がある。

3 保護者による評価

13中13名の回答

No	評 価 項 目	評 価			
1	子どもは学校に行くことを楽しいと感じている様子でしたか。	A	B	C	D
		9	3	0	1
2	子どもへの指導の内容や方法は適切でしたか。	A	B	C	D
		10	3	0	0
3	教育における専門的な助言が得られましたか。	A	B	C	D
		9	4	0	0
4	子どもにとって日課や時間割は適切でしたか。	A	B	C	D
		9	3	1	
5	個別懇談等で学校での子どもの様子は伝わりましたか。	A	B	C	D
		11	2	0	0
6	学校行事や校外学習、交流及び共同学習は適切でしたか。	A	B	C	D
		10	2	1	0
7	子どもの将来、進路について学校と話し合えましたか。	A	B	C	D
		8	5	0	0
8	学校で自立に必要な生活習慣が身につきましたか。	A	B	C	D
		7	5	1	0
9	学校は子どもの人権を尊重していましたか。	A	B	C	D
		11	2	0	0
10	教職員は子どもと十分なコミュニケーションを図っていましたか。	A	B	C	D
		11	2	0	0
11	学校が安全で安心して過ごせる環境でしたか。	A	B	C	D
		12	0	0	1
12	子どもは学校の給食を楽しく食べていましたか。	A	B	C	D
		11	1	1	0
13	個別の教育支援計画が十分に生かされていましたか。	A	B	C	D
		11	2	0	0
14	寄宿舎の生活は充実していましたか。（寄宿舎生のみ） ＊寄宿舎生外の回答あり	A	B	C	D
		5	0	0	0
15	家庭と学校が連携して子どもの生活を支えることができていましたか。	A	B	C	D
		12	1	0	0

(1) 評価結果から

概ね A もしくは B の評価であるため、本校の取組については概ね肯定的に捉えていただくことができたと考える。3つの項目でC評価、1つの項目でD評価があった。次年度に向けて、保護者とも連携しながら改善できるように努める。

ア、「分かる喜び、学ぶ楽しさが実感できる授業づくり」について

子どもたちが、学校に行くことを楽しいと感じられるよう、指導内容や方法を工夫するよう努める。今後も、自校での研修だけでなく北海道の他の視覚支援・盲学校3校と連携した研修を積極的に行い、視覚障がい教育並びに他の障がいに関わる専門性の向上に努める。

イ、「社会で生きていくための力を育む教育の充実」について

将来について積極的に語り合えるよう、進路に関わる情報を学年や年齢に応じて計画的に提供するように努める。

ウ、「安全で安心して学べる学校づくり」について

今後も子どもたちの人権を尊重し、安全で安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいく。

エ、「豊かな人間性を育む教育の推進」について

家庭と学校及び寄宿舎が連携して基本的生活習慣の定着や日常生活の充実を図っていく。

4 児童生徒による評価

小学部 1 名、中学部 4 名の回答

1	学校は楽しいですか。	A	B	C	D
		3	1	1	0
2	授業はわかりやすいですか。	A	B	C	D
		1	2	1	0
3	学校行事や校外学習は楽しいですか。	A	B	C	D
		4	1	0	0
4	自分の将来や夢を身近な大人と話しましたか。	A	B	C	D
		2	1	2	0
5	学校や寄宿舎で自分でできることが増えましたか。	A	B	C	D
		3	2	0	0
6	先生達とたくさん話していますか。	A	B	C	D
		4	1	0	0
7	学校や寄宿舎は、安全で安心して過ごせますか。	A	B	C	D
		3	2	0	0
8	困ったときや悩んだときに相談できる人はいますか。	A	B	C	D
		3	2	0	0
9	学校や寄宿舎の給食は美味しいですか。	A	B	C	D
		5	0	0	0
10	寄宿舎の生活は楽しいですか。（寄宿舎生のみ）	A	B	C	D
		1	0	0	0

（1）評価結果から

ア、「分かる喜び、学ぶ楽しさが実感できる授業づくり」について

「できた」「分かった」が実感できる授業づくりに努め、学校や寄宿舎、家庭での学習を通じて、主体的な学びにつながる取組を進めていく。

イ、「社会で生きていくための力を育む教育の充実」について

主体的に進路について保護者と一緒に考えることができるように学習での取組や情報提供を行っていく。

ウ、「安全で安心して学べる学校づくり」について

継続して子どもたちと十分なコミュニケーションをとり、子どもたちが安心し、安全に過ごすことができる環境を整えていく。

エ、「豊かな人間性を育む教育の推進」について

今後も豊かな食生活や日常生活が送れるよう環境等を整えていく。

5 学校関係者による評価

（1）地域における視覚障がい教育のセンター校としての役割に関連して

市内で盲学校のリーフレット等を目にするようになった。町内の広報等のほか、様々な機会に PR できるような場を紹介することもできるため、盲学校についての理解啓発を継続していくとよい。

（2）安心して学べる学校づくりに関連して

教職員評価のうち特にいじめや体罰を許さない意識は全員が A 評価が付くよう期待する。いじめは些細なことで登校できなくなるため、普段から子どもたちの変化をよく見るようにすることが大切である。

（3）教職員の指導力向上・授業改善・専門性の向上に関連して

教職員評価の授業づくりの項目は B が多くあることから今後に期待できる。